

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-219284

(43)Date of publication of application : 01.09.1989

(51)Int.Cl.

E06B 9/266

(21)Application number : 63-043828

(71)Applicant : KAJIMA CORP

(22)Date of filing : 26.02.1988

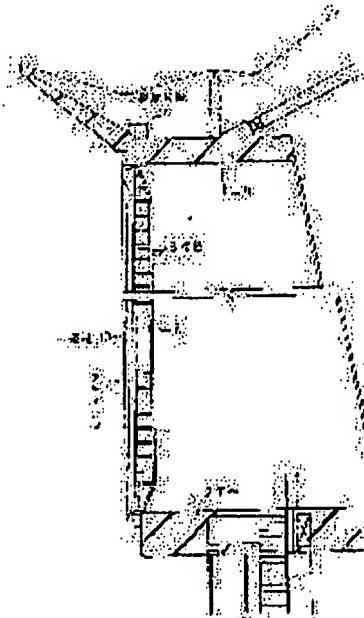
(72)Inventor : SANO YUKIO
OZAKI MASARU
WADA MITSUO

(54) INSTALLATION STRUCTURE OF BLIND TO LARGE SIZE OPENING OF BUILDING WALL SURFACE

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve ventilation and natural lighting with strength maintained, by installing blinds with turnable slats between stiles that are installed on the exterior-side of a plurality of bracketed pillars erected between the top and bottom frames of a large-sized opening of a wall surface.

CONSTITUTION: Between a top frame 1 and a bottom frame 2 constituting a large-sized opening on a wall surface of a building like a large size roofed ground, a plurality of bracketed pillars 5 are erected at intervals in the direction of the opening width. At the exterior-side of the bracketed pillars 5, stiles 10 are integrally erected. Blinds equipped with slats capable of turning around horizontal axes are installed between the stiles 10. The slats of the blinds can be opened and shut by slat turning devices incorporated in the stiles 10.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑫公開特許公報(A) 平1-219284

⑬Int.Cl.⁴

E 06 B 9/266

識別記号

府内整理番号

8006-2E

⑭公開 平成1年(1989)9月1日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮発明の名称 建物壁面大型開口部のブラインド取付構造

⑯特 願 昭63-43828

⑰出 願 昭63(1988)2月26日

⑱発明者 佐野 幸夫 東京都港区元赤坂1丁目2番7号 鹿島建設株式会社内

⑲発明者 尾崎 勝 東京都港区元赤坂1丁目2番7号 鹿島建設株式会社内

⑳発明者 和田 三夫 宮城県仙台市二日町1-27 鹿島建設株式会社東北支店内

㉑出願人 鹿島建設株式会社 東京都港区元赤坂1丁目2番7号

㉒代理人 弁理士 久門 知

明細書

1. 発明の名称

建物壁面大型開口部のブラインド取付構造

2. 特許請求の範囲

(1) 本発明は、建物壁面の大型開口部を構成する上枠と下枠間に複数本の受柱を開口幅方向に間隔をおいて立設し、各受柱の屋外側に豊枠を一体に突設し、該豊枠間に、水平軸を中心として回転可能な多数のスラットを有するブラインドを設け、該ブラインドのスラット回転機構を前記豊枠に内蔵したことを特徴とする建物壁面大型開口部のブラインド取付構造。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、大型屋根付きグラウンド等建物の壁面に設けた大型開口部におけるブラインド取付構造に関するものである。

(従来の技術)

従来、体育館等では、換気と採光のために、

壁や屋根の適当な所に開口部を設け、該開口部に開閉可能な窓や嵌め殺しの窓或いはその組合せを配置し、壁面では前記窓の他にルーバーを設け、必要によって窓の屋内側にブラインドを設ける等の方法が採られている。

(発明が解決しようとする課題)

前記いずれの方法でも窓を使用するから、壁面の大型開口部では、風圧等に対する取付強度を確保するのに複雑かつ堅牢な枠構造が必要となる。また、窓の開閉機構が複雑で設備費がかかる。しかも、壁面の一部にしか窓が設けられておらず、該壁面が視界を遮り、屋内外の空間が不連続となるから、開放感が損なわれるという不都合があった。

(発明の目的)

本発明は前記課題を解決するためになしたもので、屋内外の空間の連続性を得るために壁面の略全体をカーテンウォール式のブラインドで構成し、かかる場合に問題となる取付強度を確保できるようにすることを目的とする。

(課題を解決するための手段)

本発明に係る建物壁面大型開口部のブラインド取付構造は、建物壁面の大型開口部を構成する上枠と下枠間に複数本の受柱を開口幅方向に間隔をおいて立設し、各受柱の屋外側に豎框を一体に突設し、該豎框間に、水平軸を中心として回転可能な多数のスラットを有するブラインドを設け、該ブラインドのスラット回転機構を前記豎框に内蔵したことを特徴としており、かかる構成により上記目的を達成するものである。

(実施例)

以下、本発明の一実施例を図面に沿って説明する。

図中1は上枠(実施例ではアーチ)、2は下枠(実施例ではアーチの両端部を連結するタイバー)で、シェル構造の屋根を有する建物壁面の大型開口部枠を構成しており、上枠1と下枠2には相対応するブラケット3、4がアンカーフィットされ、5は2本のパイプを連結材で一体に連結した

15によりシール保持されている。また、勝板13には、最下段の可動スラット11と当接するシール弾性舌片16と、等圧理論に基づき屋内外を連通させる連通孔17とが設けられ、連通孔17内には、雨水侵入を防止するシール弾性舌片18が設けられている。

前記豎框10内において、各水平軸12にはレバー19が取り付けられ、各レバー19の先端部は上下に連続する1本の連動部材20にピン21によって枢着されている。連動部材20の所定位置に設けたブラケット22には作動棒23の一端部がピン24により回転可能に枢着されている。作動棒23は、前記受柱5にブラケット25と軸26を介して取り付けられた該軸26を中心として上下方向に回転可能なホルダ-27内を移動可能に上下に貫通している。ホルダ-27内には1対のローラ28と軸26に装着されたビニオン29が前記作動棒23を挟んで対向して設けられ、また、作動棒23のビニオン29側にはラック30が設けられてお

り、屋内側パイプを柱とする受柱で、該受柱5の側面には、前記連結材を上下方向に等間隔で配置したメンテナンス用の梯子6が設けられ、上下端にはブラケット7、8が設けられており、該ブラケット7、8と前記ブラケット3、4をボルト9により連結することによって受柱3は上枠1と下枠2に連結されている。

10は豎框で、前記各受柱3の屋外側に一体に突設されて上下方向に連続している。

前記豎框10間にボリカーボネイト樹脂製の可動スラット11が多段に配置され、豎框10に水平軸12を介して回転可能に取り付けられており、後述するスラット回転機構19～28により水平軸12を中心として回転する。豎框10の上端部間にボリカーボネイト樹脂製の固定スラット11'が、また下端部間に勝板13が夫々設けられており、前記可動スラット11の閉じ時可動スラット11を受ける。

固定スラット11'の上端部は、上枠1側に設けたシール溝14内に挿入されてパッキン

り、作動棒23は1対のローラ28と、ラック30に噛み合ったビニオン29とにより支持されている。また、ビニオン29を装着した前記軸26は、隣合う豎框10間において連動軸31を介して互いに連結されている。そして、前記大型開口部枠の所定位置(実施例では上枠1の上部)には、各連動軸31を連動機構32等を介して連動回転させる駆動装置33が設置されている。尚、連動機構32等を介して連動軸31を回転させた例について説明したが、第7図に示す如く連動軸31を直接回転させても良い。また、連動軸31でラックビニオン機構を作動させ、これによって移動する作動棒23を介し連動部材20を上下動せしめる例について説明したが、連動部材20をラックビニオン機構等を介して直接上下動させても良い。

尚、本実施例では、可動スラット11の材質としてボリカーボネイトを使用した例について説明したが、軽量で強度を持った透明感のある材質であれば何らボリカーボネイトに限定さ

れないことは言うまでもない。

(作用)

駆動装置 33 によって連動軸 31、軸 26 を介してピニオン 29 を回転させると、作動棒 23 は、ローラ 28 とピニオン 29 に案内されてラックピニオン機構により斜め上下方向に進退しつつ軸 26を中心として回動するから、連動部材 20 は、この作動棒 23 を介し受柱 5 を反力受として上下動する。このため、各列の可動スラット 11(ブラインド)は同期して回転する。従って、建物壁面の略全体にわたる大型開口部に設けた複数列のブラインドは一齊に開き又は閉じるから、可動スラット 11 の角度調整で風量及び光量をかなり大幅に調整することができる。可動スラット 11 の角度調整は、スラットの材質が軽量のポリカーボネイト樹脂であるため、軽快に行える。雨天時には、スラットを互いに重ねておけば、連通孔 17 により屋内外の圧力が略等しく保たれていることと相俟って重なったスラット間から雨水が屋内側に侵

入することはない。

また、建物壁面の大型開口部を覆うスラット 11、11' は透明なポリカーボネイト樹脂製であるから、前記の光量調整によらなくても屋内側に十分な採光を得ることができるし、スラットの角度調整によらなくても建物使用時に開放感が得られるような屋内外の空間の連続性を視覚的に得ることもできる。

風圧に対しては、ブラインドのスラットが強度のあるポリカーボネイト製であり、受柱 5 の屋外側に取り付けた堅框 10 に取り付けられているから、各ブラインドは受柱 5 に確実に支持されて風圧にも十分に耐える。

さらに、スラット回転機構は堅框 10 に体裁良く内蔵されて雨水等から保護されており、長期使用に耐えるし、受柱 5 に設けた梯子 6 によってメンテナンスも容易に行える。

(発明の効果)

以上の通り本発明は、建物壁面の大型開口部にこれを覆う複数列のカーテンウォール式ブ

ラインドを設けることができるから、スラットの角度調整によって従来に比べて風量及び光量の調整機能をかなり大幅に向上させ得るし、少なくともスラットの角度調整によって屋内外の空間の連続性を確保して建物使用時に開放感が得られるようにでき、また、風圧等に対する安全性も充分に確保できる。

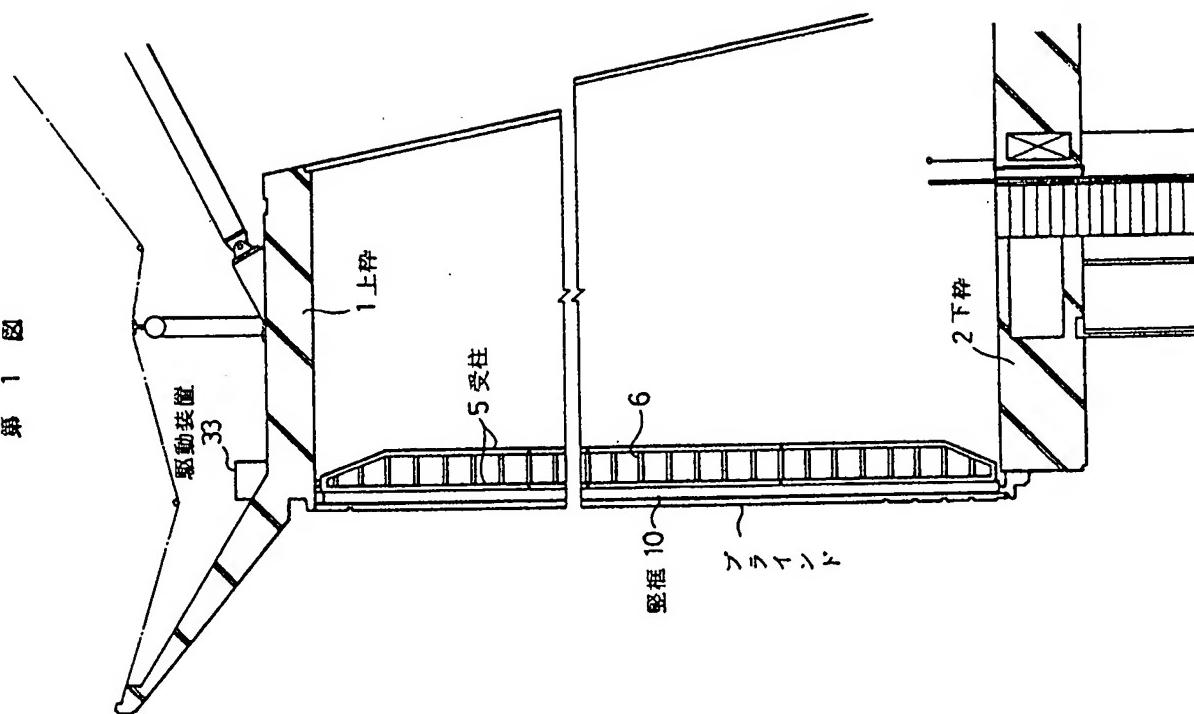
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例を示す縦断面図、第 2 図は第 1 図の上部拡大図、第 3 図は第 1 図の下部拡大図、第 4 図は平面図、第 5 図は建物壁面の正面図、第 6 図は第 5 図の平面図、第 7 図はスラット回転機構の斜視図である。

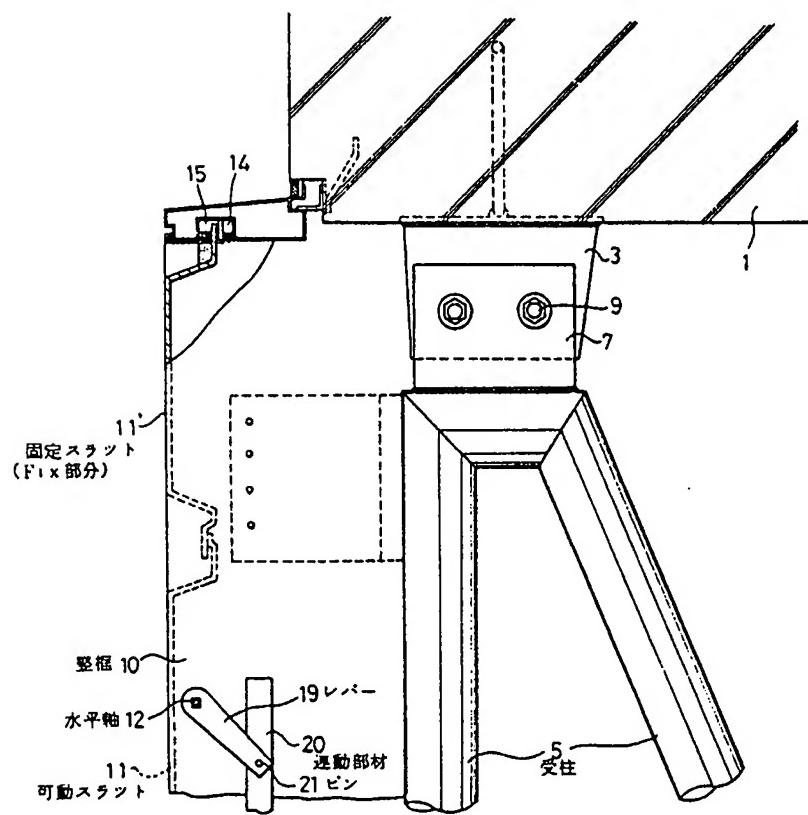
1 ··· 上枠、2 ··· 下枠、5 ··· 受柱、
6 ··· 梯子、10 ··· 堅框、11 ···
可動スラット、11' ··· 固定スラット、
12 ··· 水平軸、13 ··· 脊板、17 ···
・連通孔、19 ··· レバー、20 ··· 連動
部材、23 ··· 作動棒、26 ··· 軸、27
··· ホルダー、28 ··· ローラ、29 ···

・ピニオン、30 ··· ラック、31 ··· 連動軸、32 ··· 連動機構、33 ··· 駆動装置。

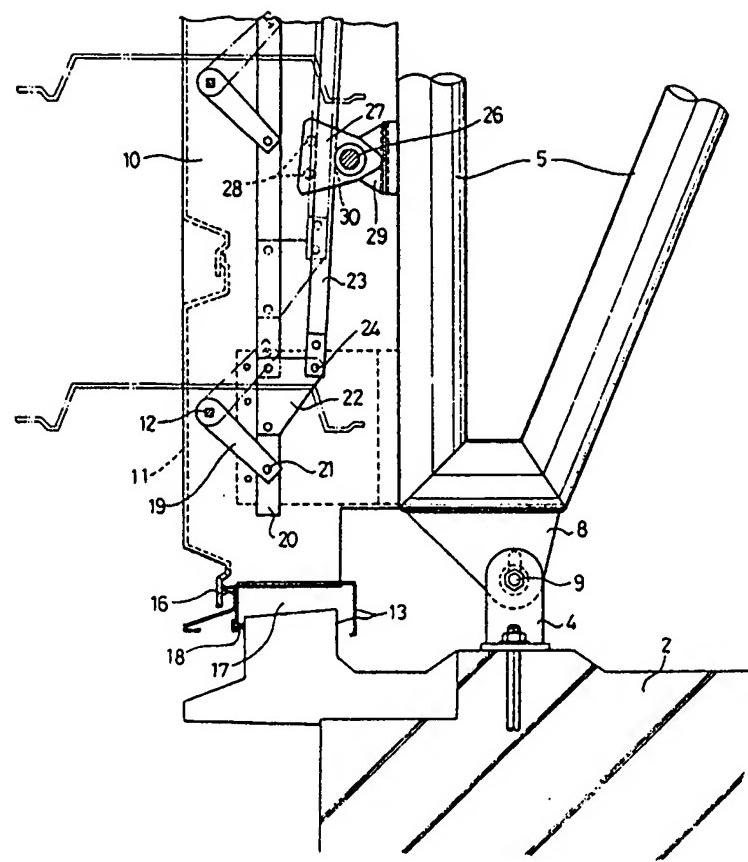
第1図



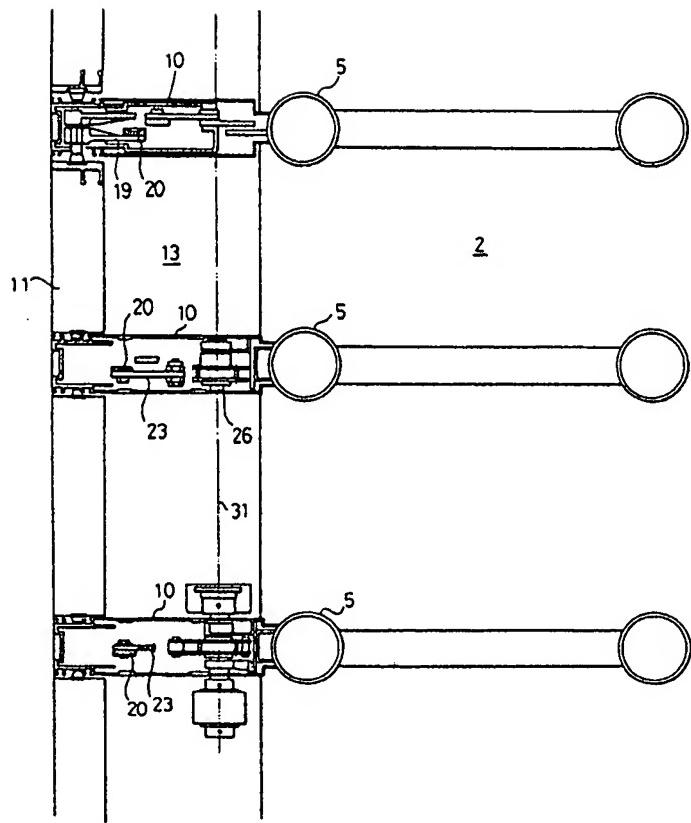
第2図



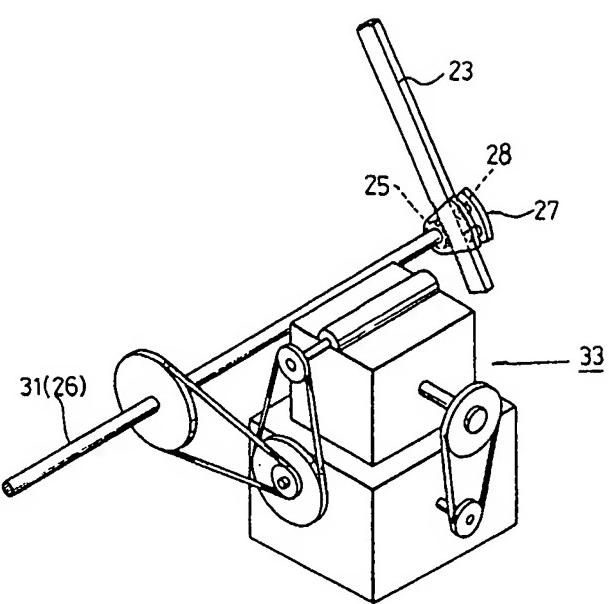
第3図



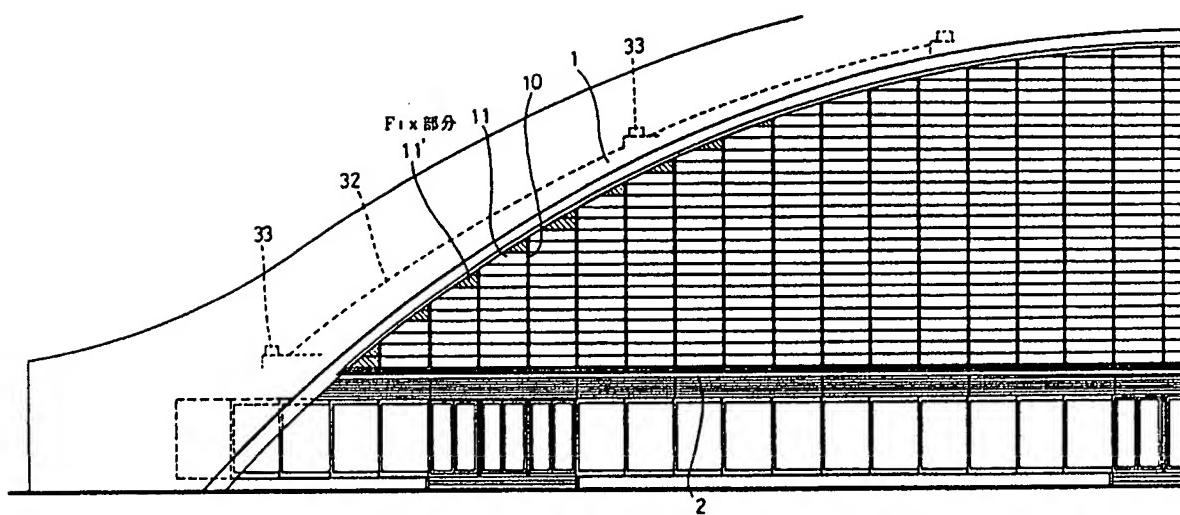
第4図



第7図



第5図



第6図

